



# 学校だより

令和4年9月30日  
横浜市立仏向小学校  
10月号

## 子どもの視力

副校長 井島 恵子

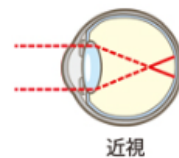
仏向小学校の放送委員会では毎日、朝の放送であいさつと換気を呼びかけるアナウンスとともに、「今日は〇〇の日」という情報も提供してくれます。9月は12日のマラソン競技発祥の日、22日はリンカーンの奴隷解放宣言が紹介されました。

10月は10日に『目の愛護デー』があります。ご存じの方も多いと思いますが、10を横にすると目のように見えるので10月10日です。学校の健康診断では以前から子どもの視力低下が憂慮されています。4月に実施



した仏向小の結果では、6年生の裸眼視力 1.0 未満の割合は 48.75%でした。ちなみに文部科学省から公表されている令和3年度学校保健統計では、6年生は 50.03%となっています。

近視の増加については今年6月、文部科学省から「児童生徒近視実態調査」の結果が公表されました。この調査の背景には、学校の健康診断では近視なのか遠視なのかわからないことと、急激に進むデジタル化の中で、ICT 機器の使用による視力への影響に関心が寄せられていることがあるようです。公表後、NHK のニュースの中で「子どもの目の奥行」について放送されていました。目の奥行が伸びると、網膜の手前で光のピントが合ってしまい、近視状態になってしまいます。その奥行きが小学6年生で既に成人の平均に達していて、成長とともに奥行きは伸びていく可能性があるということが紹介されていました。奥行きが伸びるということは、近視になる可能性も高くなると言えるでしょう。



ご家庭でもお子さんの視力が心配で、声をかけることがあるのではないのでしょうか。以前勤務していた学校で、眼鏡をかけたことにより学習内容がよくわかるようになった子がいました。子どもは知らず知らずのうちに自分で「見えやすいコツ」を見つけていて、日常生活で不便さを感じることは少ないかもしれません。健康診断の結果や自宅で勉強やゲームをしているときの姿勢が気になる場合は、ぜひ一度眼科で相談してみてください。

\*参考文献「きょうは、どんな日?—2学期」ポプラ社